

今年、江戸幕府の大老として日本を開国へと導き、諸外国との交易・交流の門戸を開いた彦根藩主・井伊直弼の生誕200年を迎えます。

どの地域でも、地元出身の偉人を誇る思いがありますが、彦根での直弼は、そのような思いを超えて、功績が高く評価され、慕われています。その背景には、明治時代に、政治的な思惑から直弼に下された悪い評価を覆そうと、彦根の人々が顕彰活動を続けてきたことがあります。

そして、今もその思いは受け継がれています。一方で近年、直弼の文化活動が評価されたり、その個性が明らかになったりするなど、新たな評価がなされつつあります。

生誕200年を迎えるこの機会に、功績や人柄、文化人としての側面など、まだまだ全国に知られていない直弼の魅力を発信するため、記念事業「井伊直弼公生誕200年祭」を開催します。

今回の特集は、「井伊直弼公生誕200年祭」の内容と直弼の魅力を紹介します。

問い合わせ先 岡観光企画課 ☎30・6120番、FAX 22・1398番

▼埋木舎(尾末町)



井伊直弼画像(清涼寺所蔵)

キーワードと彦根城博物館収蔵作品で見る直弼のこころ

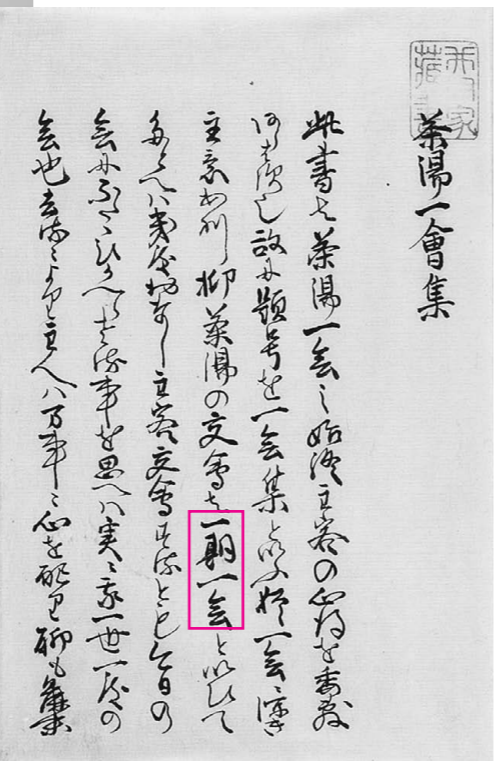
「埋木」の精神

直弼は、もともと井伊家を継ぐような立場ではありませんでした。世間から顧みられることのない自分の境遇を、地中に埋もれて見えなくなった木に例え、青年時代を過ごした屋敷を「埋木舎」と名付けました。埋木舎という名前には、この屋敷で埋もれ木のように暮らしていくことを覚悟しながらも、世の中の面倒事から離れ、文武の修養に励んでいくとする直弼の強い意志が表れています。

埋木舎での部屋住み時代、直弼は禅にはじまり、茶の湯や居合といった精神性の高い諸芸を深く追究しています。また、国学や和歌の研究にも励みました。いずれの分野でも、先人の文章を読み込み、思索を重ね、独自の考えを導き出しています。代表的なものが茶の湯で、石州流の一派を創設しました。藩主となつてからも研さんを積み、『茶湯一会集』などの著作を残しています。

曲物黒漆塗栗山桶水指

直弼が日光名産の曲物の桶を入手し、茶の湯の水を入れておく水指という器に仕立てた作品。直弼が、産地の栗山について詠んだ和歌が書かれています。
※9月18日(金)から展示

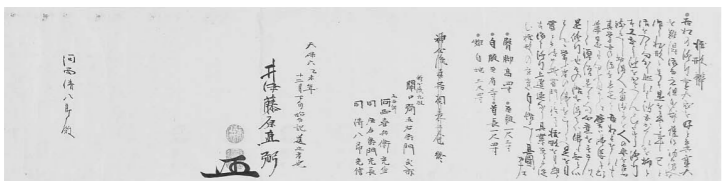
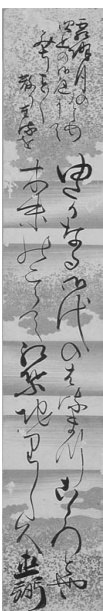


茶湯一会集の序文

此書と茶湯一会は、始末のついでに書か
れし故に、題を「茶湯一会」とし、
主家(柳)の文書と一期一会と
多し、茶湯一会は、主家(柳)の
心と身を、一期一会の
心と身を、一期一会の
心と身を、一期一会の

和歌短冊 井伊直弼筆

直弼が江戸城の庭園の風景を詠んだ和歌。直弼は、千首以上の自詠和歌を収めた本を著すなど多くの和歌を残しています。
※10月23日(金)から展示



神心流居相表之巻

直弼が研究の末にまとめた居合術の書物。居合の鍛錬を極めた直弼は、武術を超えた武士の心と身体のあり方として居合をとらえ直し、その考えをまとめました。
※10月23日(金)から展示

直弼の生涯

井伊家11代直中の14男として生まれた直弼は、兄の死など、さまざまな巡り合わせにより、36歳で彦根藩主となりました。その8年後の安政5年(1858)に、江戸幕府の最高職である大老に就任します。アメリカとの外交問題、將軍の後継者争いという難問を解決する切り札として、將軍徳川家定に登用されたのです。

大老就任後の直弼は、これらの課題解決に取り組み、日米修好通商条約を締結します。しかし、幕府の方針に反対する朝廷や水戸藩などが幕府政治を批判する行動に出ると、安政の大獄と呼ばれる反対派への処罰を行いました。激しい政治抗争の末、安政7年(1860)3月3日、直弼は江戸城桜田門外で水戸浪士などにより暗殺され、46歳でその生涯を終えました。藩主となり政治の表舞台に登場してから10年後のことでした。

「一期一会」

直弼は、茶の湯で最も大切なことは、主と客の心の交流だと考えていました。それを一言で表したのが、「一期一会(いちごいちえ)」という言葉です。この言葉には、一度の茶会での出会いは一生に一度だけのものだから、心を尽くして、出会いの時間を大切にしようという意味が込められています。

この考えは、千利休に由来するものですが、直弼が自らの茶の湯の集大成として執筆した茶書、『茶湯一会集』の序文に書かれたことで、広く世に知られる言葉になりました。

新しい直弼評価

彦根城博物館には、直弼自筆の書状や書跡、自作の道具など、その活動を直接示す資料がまとまって伝来しています。直弼は、これまで善悪さまざまに評価がなされてきましたが、当館ではこれらの資料から、その生涯や活動を読み直す活動をしています。

当館では、7月から「シリーズ直弼のこころ」と題する展覧会(詳細は4,5ページ)を企画しています。展覧会では、直弼の実像に迫り、そのこころを解き明かします。

問い合わせ先 彦根城博物館 ☎22・6100番、FAX 22・6520番